



9月9日の定例会では、平成24年度9会計の決算を議長と又地議員（監査委員）を除く全員で構成する決算審査特別委員会（竹田 努委員長）を設置し、付託しました。
特別委員会は10日から12日までの3日間にわたり審査を行い、17日には意見を付して全会計の決算を認定しました。

木古内町の基金と町債(過去5年)

(貯金) (借入金)

●基金(貯金)残高の推移《一般会計》

平成24年度	16億5,460万円
平成23年度	13億897万円
平成22年度	11億3,356万円
平成21年度	7億5,422万円
平成20年度	4億5,080万円

※平成20年度の基金(貯金)は約4億5,000万円でしたが、5年後の24年度は約16億5,000万円となり、4倍近くになっています。備荒資金積立金を含む金額となっています。

●町債(借入金)残高の推移《一般会計》

平成24年度	41億969万円
平成23年度	40億141万円
平成22年度	41億5,141万円
平成21年度	42億5,083万円
平成20年度	44億2,944万円

※基金が増えている一方で平成20年度の町債(借入金)は約44億2,944万円でしたが、5年後の24年度は約41億968万円となり、約9%程度の減となっています。

決算委員会質疑

総務課

職員研修
成果は出ているか

東出委員 職員研修に19名参加したという実績になっていますが、どのような成果と評価をしているのでしょうか。
新井田総務課長 毎年の新採用や人数の減少、業務の多忙もあり職員の資質や能力の向上のため、職員研修は必須となっています。

研修は、長い年月をかけて一定の力をつけることが必要であり今後、成果として十分出てくると思っています。採用計画や人事計画を含め、予算の範囲内で研修計画を立てていきたいと考えています。

まちづくり新幹線課

郵便料支出ゼロ
予算は何のためにある

福嶋委員 町政広報に関わる役務費の支出がゼロになっていますが、どうなっているのでしょうか。
吉田(宏)主査 郵便物の送付は総務課が一括管理しており、実際には総務課で支出しています。

福嶋委員 総務課が支出しているというのはまずいのではないですか。何のために予算を見ているのですか。
大野副町長 ご指摘は最もです。総務課で一括運用するほうが郵便料が安価となる方法を取っていますが、再考したいと思います。